

厚真町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

厚真町は南北に細長く、市街地が2つ存在するほか、郊外に集落が点在する構造となっており、移動手段が確保できない交通空白地域が存在し、また、高齢化の進展や核家族化の進行等により、バス利用が困難となっている高齢者の増加や外出手段の選択肢が少ないことなどの問題が顕在化している。さらに、買物や通院等の日常生活に必要な移動について、隣接都市である苫小牧市や千歳市への移動も多く、都市間バス(地域間幹線バス路線)との円滑な接続も課題となっている。

誰もがいつまでも安心して暮らすために必要な、持続可能な移動サービスを確保していく必要がある。

地域公共交通の現況

- ・JR日高本線(浜厚真駅)
- ・あつまバス(株)(9路線)
- ・道南バス(株)(町内経由2路線)
- ・デマンド交通めぐくん(3路線)
- ・スクールバス(7路線)

生活交通確保維持改善計画の目標

目標

デマンド交通利用者を7,000人以上とする。

効果

・町内における公共交通を維持することにより、高齢者等の買い物・通院等の生活に係る移動を確保することができる。

・地域間幹線系統との接続により広域的な移動を支援することができる。

協議会開催状況

○令和4年3月18日第38回協議会を開催

- ・厚真町地域公共交通計画の策定について
- ・令和4年度厚真町地域公共交通活性化協議会予算について
- ・厚真町地域公共交通計画の施策に係る実施内容について

○令和4年6月27日第39回協議会を開催

- ・循環福祉バス再編にかかる利用状況について
- ・令和3年度厚真町地域公共交通活性化協議会収支決算について
- ・令和4年度厚真町地域公共交通活性化協議会補正予算について
- ・令和5年度地域内フィーダー系統確保維持計画について

○令和5年1月13日第40回協議会(書面会議)を開催

- ・令和4年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

令和4年度事業概要

町内全域を3系統に分け、交通不便地域と中心市街地及び地域間幹線系統(苫小牧線・千歳線)を結ぶデマンド型運行を行った。7人乗り車両1台と15人乗り車両2台を、オペレーターによる配車とAI配車システムを併用し効率的に運用した。

3系統 ①北部地区線 ②市街地線 ③南部地区線

令和4年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- ・すべての区域においてデマンド化に移行した。
- ・令和4年5月に厚真町公共交通ガイドブック(改訂版)を全戸配布し、また、9月広報にてチラシの折込みを行い、便利になったデマンド交通「めぐるくん」の利用方法などを周知した。
- ・各地区の自治会長や民生委員、社会福祉協議会と連携し、地域内の住民へ周知を図った。

2) 運行系統

1 市街地線

厚真市街地内を移動するための路線です。

運行区域	厚真市街地
乗降場所	厚真市街地の希望場所
運行時間	9:00~16:00(時間内いつでも)

2 北部地区線

北部地区内と厚真市街地内を移動するための路線です。

運行区域	北部地域(厚真市街地を含む)
乗降場所	北部地域と厚真市街地の希望場所
運行時間	午前2便、午後2便の4便

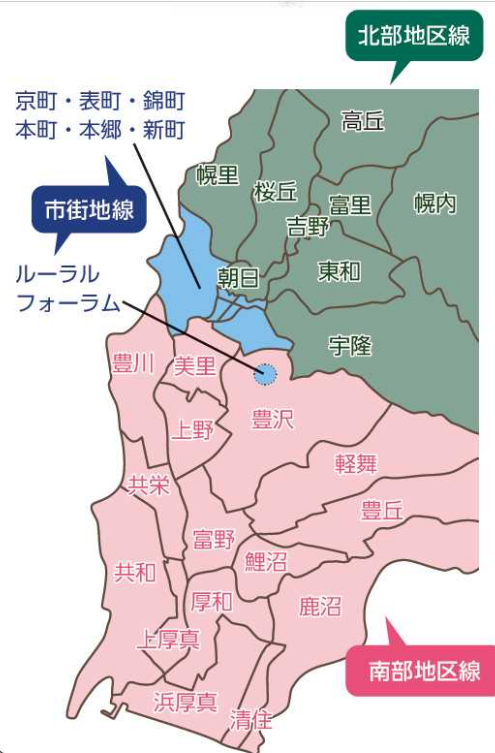
3 南部地区線

南部地区内と厚真市街地内を移動するための路線です。

運行区域	南部地域(厚真市街地を含む)
乗降場所	南部地域と厚真市街地の希望場所
運行時間	午前2便、午後2便の4便

※運行区域をまたぐ移動は乗り換えが必要です。

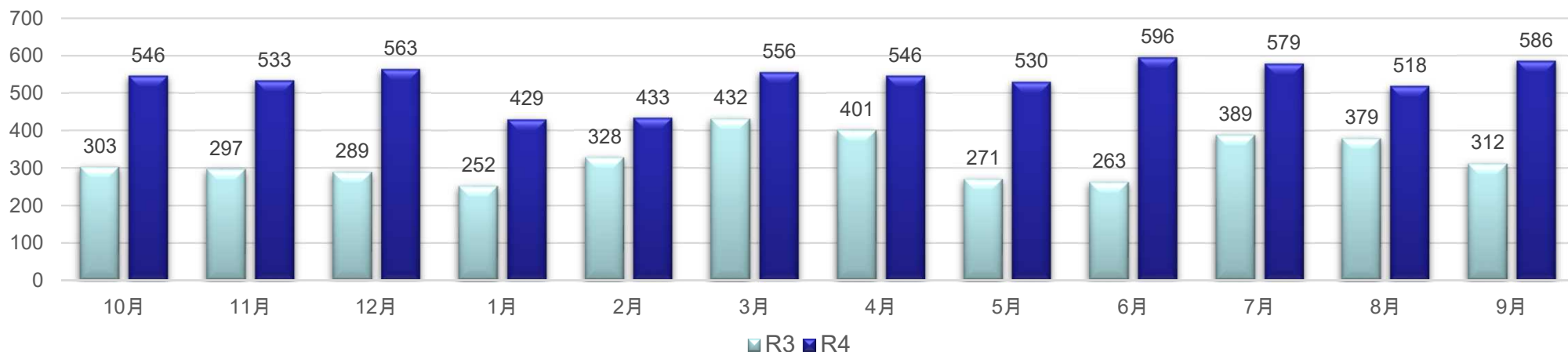
(例) 幌内(北部地区)から上厚真(南部地区)に行きたい場合は、市街地で乗り換えてください。また、それぞれに利用料金をお支払いください。



3) 利用実績

デマンド交通めぐるくん利用者数実績(人)

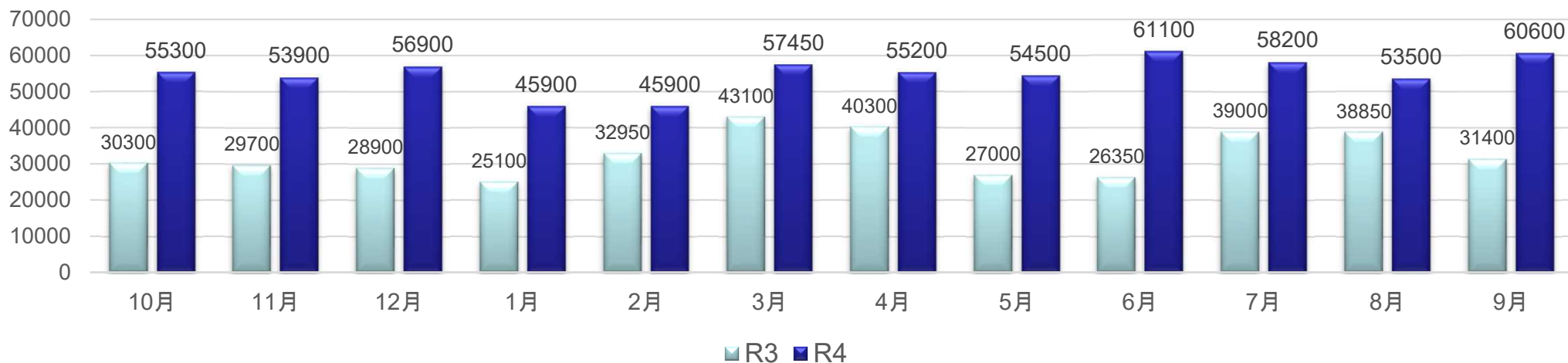
令和3年度 合計3,916人 月平均326.3人
 令和4年度 合計6,415人 月平均534.6人



4) 収入実績

デマンド交通めぐるくん運行収入(円)

令和3年度 合計392,950円 月平均32,745円
 令和4年度 合計658,450円 月平均54,870円



5) 事業実施の適切性

3系統

- ①北部地区線 月～土曜日 1日4回運行(311日)
- ②市街地線 月～土曜日 1日4回運行(311日)
- ③南部地区線 月～土曜日 1日4回運行(311日)

予約時間 午前8時から午後7時まで

事業計画は計画どおり適切に実施された。

7) 事業の今後の改善点

- ・路線再編による利用状況の分析を進め、更に効率的な運行形態を追求する。
- ・料金については、町の財政状況を見極めつつ、公共交通を維持・確保する観点から慎重に検討を行う。
- ・広報紙以外にも、あらゆる媒体を通じて積極的に周知活動を行うとともに、わかりやすい情報提供を行い、更なる利用促進を図っていく。
- ・利用のほとんどが高齢者であることから、高齢者に配慮したわかりやすく使いやすい運営に努める一方、高齢者以外の世代に対する利用促進を強化していく。

6) 目標・効果達成状況

デマンド交通の目標利用者数＝年間7,000人に対し、利用実績は6,415人となり、目標を達成することはできなかったが、前年度の利用実績3,916人からは大幅に増加した。

利用者数が増加した要因には、以下の要因が考えられる。

- ・路線再編等利便性向上による新規利用者の増加
- ・基本的な感染対策の徹底が図られ、さらにウィズコロナが浸透し、外出機会も増え、一人当たりの利用回数が増加

8) 地方運輸局における二次評価結果

(令和5年度分と併せて評価)